

# 徹底した透明性

花王は、製品に関する透明性を通じて、生活者により強固な信頼関係を構築することをめざしています。生活者にとって必要な情報を適切にわかりやすくお伝えしていくことが、生活者の正しい選択やこころ豊かな暮らしにとって重要です。

さらに、気候変動や生物多様性ほか、各種非財務情報に対する外部ステークホルダーからの問い合わせや国際的な情報開示の動きにも積極的に対応していきます。各種レポートやウェブサイト、さまざまなステークホルダーとの交流の場を通じて、タイムリーに情報を開示しています。

## 社会的課題

現代の社会生活においては、個人にとって必要なあるいは重要な情報を得たいというニーズが高まると共に、SNSの発達でより多くの情報を手軽に入手できるようになっています。生活者においては、環境や社会に配慮した製品やサービスを選んで消費する「エシカル消費」が広がりを見せており、個々の製品の品質はもちろんのこと、信頼できる企業から製品を購入したいという考えが広がっています。

しかしながら、企業やモノの情報はまだ断片的であることが多く、生活者は正しい選択が十分にできないのが現状です。

また、気候変動や生物多様性関連ほかの環境要素、人的資本や人権関連などの社会的要素、ガバナンス要素といった、各種非財務情報に対する外部ステークホルダーからの問い合わせや国際的な情報開示の動きもますます活発化しています。特に環境関連の領域では、これまで外部不経済として扱われてきた項目が見直され、社会と地球に対してよりよい行動をとることが常識になってきています。

## 方針

透明性に関しては、花王ウェイ、花王ビジネスコンダクトガイドライン、情報開示指針を基本に、個人・社会・地球に対して正しい選択をするために、必要な人が必要とする情報を必要な時に簡単に入手できること、そして、その正しい情報をもとに、ステークホルダーとの対話がより発展することをめざします。社会から信頼され、支持される企業となることをめざし、すべてのステークホルダーの皆さまに適時・正確かつ公平に情報を開示していきます。

まず、花王内の事業活動のすべてにおいて透明性を主流化し、時代と共に求められる透明性の範囲やレベルに一步先んじて活動を拡大、高度化します。そしてそれは社員の自発的な呼びかけにより行われ、個々の活動がそれぞれ調和・連動することで、生活者の安全・安心と、企業と生活者のあいだで信頼や共感を生み、人と社会、地球にとって価値のある選択へとつながることをめざしています。

また、情報の保管と管理を主な目的に個別設計されていた各データベースが有機的につながって、社内外のステークホルダーとのあいだで情報の流れがスムーズになるようなシステム面での対応が必要になります。透明性の向上をさらに進めることで、求められる情報

を開示するという段階から、Kirei Lifestyle Plan 実現のためのコミュニケーション促進、双方向活動の推進へと発展し、ESG視点のよきモノづくり(ESGよきモノづくり)へとつなげていきます。そして、花王ウェイに定めるビジョン、「人をよく理解し期待の先いく企業」をめざします。

2020年のコロナパンデミック以降、あらゆる社会活動において非接触、非対面を中心としたデジタル技術が広く浸透した結果、多くの人がデジタル技術の持つ新たな価値に気づき、日常生活そのものが大きく変化しました。消費行動と消費に必要とされる情報へのアクセスもそのひとつです。生活者のお手元に、適切なかたちで素早く価値提供することがより重視されるようになってきました。そのためには、場所や時間にとらわれないコミュニケーションを可能とするデジタルの力が欠かせません。私たちは徹底した透明性の活動の中に、ESG活動におけるDX推進を取り入れていきます。

正道を歩む会社として、生活者のこころ豊かな暮らしを支える商品に科学的根拠に基づいた有益な情報を添えて、また、各種非財務情報に対する外部ステークホルダーからの問い合わせや国際的な情報開示の動きに積極的に対応することで、さまざまなステークホルダーと共に、人と社会、地球と共に持続可能な企業となることをめざします。

# 徹底した透明性

## 香りに関する方針

2020年5月に公開した「香りに関する方針」では、香りを通じた“よきモノづくり”への思いや提供したい価値、香りに関する研究事例などを紹介しています。また、以下3つの点を開示方針として記載しています。

1. 私たちは、販売する地域の規制を守ることはもちろんのこと、最新の安全性データを収集しています。
2. 私たちは、国際的な香料安全基準である国際香粧品香料協会(IFRA) スタンドダードに準拠した香料を使って香りを創出しています。
3. 私たちは、製品中に0.01重量%以上配合されている香料成分情報を開示していきます。



香りに関する方針

<https://www.kao.com/jp/innovation/safety-quality/fragrance-policy/>

開示の閾値(製品中0.01重量%以上配合されている香料成分)は、SCCS opinionを参照し決定しています。この基準は、欧米同業企業における開示基準とも合致しています。



SCCS opinion on fragrance allergens in cosmetic products  
[https://ec.europa.eu/health/scientific\\_committees/consumer\\_safety/docs/sccs\\_o\\_102.pdf](https://ec.europa.eu/health/scientific_committees/consumer_safety/docs/sccs_o_102.pdf)

## 戦略

### リスクと機会

#### リスク

素早く変化する市場や生活者に適切なタイミングで、質・量共に十分な情報を提供できない場合、また、その情報が企業や企業が提供するモノと親和性がない場合は、購入対象の製品はもちろん、企業さえも生活者の選択肢から排除されてしまう可能性があります。花王は生活者への情報提供を第一優先と考え、活動を進めてきました。

製品に関わる情報も、成分に関するもののほか、容器包装や環境影響に関するものがあり、取り扱う情報は広がっています。

また、法規制など開示義務が課せられた情報はもちろん、化学物質管理や各種格付機関からのESG 関連情報に関する質問、TCFD ※1やTNFD ※2への対応など、企業に対する情報開示を求める動きはますます加速、そして複雑化しています。このような世の中の動きに対して準備を怠れば、開示要求に対応できず、企業としての信頼性の低下につながります。

※1 TCFD: The Task Force on Climate-related Financial Disclosures(気候関連財務情報開示タスクフォース)

※2 TNFD: The Task Force on Nature-related Financial Disclosures(自然関連財務情報開示タスクフォース)

#### 機会

日本は欧米に比べるとまだエシカル市場が成熟していないのではないかといわれます。その原因のひとつに、生活者が商品を選択するのに役立つ情報を企業が十分提供しきれていないことが挙げられます。

エシカル、すなわち人や地球環境、社会、地域に配慮した考え方や行動を取ることはとても大切なことです。花王がめざすKirei Lifestyleにも共通します。適切な情報開示と、ESGよきモノづくりが一体となり、生活者が日々の暮らしの中で正しい選択が可能となる環境をいち早く整備できれば、日本におけるエシカル市場のけん引役となれる可能性があります。

また、気候変動や自然関連などの国際的な情報開示の動きに積極的に対応することは、よりよい社会と地球の実現に対して前向きな企業であるとの評価につながるだけでなく、自社の活動と戦略を見直し、その後の活動を強みに変えることができます。

このように、世の中の動きに対応し、半歩先駆けて透明性を高めることができれば、信頼性の向上につながるだけでなく、共通の情報に基づく生活者や市場、投資家からのフィードバックをもとにした強い商品・サービスの提供が可能になると考えています。

昨今の社会活動における非接触、非対面を中心としたデジタル技術を徹底した透明性の活動の中に取り入れ、ESG活動におけるDX推進を図っていきます。

# 徹底した透明性

## 戦略

花王は、あらかじめESGの視点と情報を盛り込んだESGよきモノづくりを推進し、従来の物理的な性能軸だけでなく、モノとサービスに込められた背景や思いをお伝えしていきます。また、人・社会・地球に対して正しい選択をするために、必要な情報が必要な時に簡単に入手でき、その情報をもとにステークホルダーとの対話がより発展していける状態をつくっていきます。

そして花王は、透明性に関する活動を、外部からの要求への対応（発信や回答）から、KLP実現のための双方向コミュニケーションツールへと発展させていきます。対応の段階では、開示の促進やトレーサビリティの確保、ユーザーフレンドリーでアクセスが容易なインターフェースの整備が必要となります。また、双方向のコミュニケーションの段階では、哲学を伝え共有することや、生活者の要求に対するカスタマイズ性、よりよい生活スタイルの提案が求められるようになります。

変化が激しい現代社会では、対応の段階でも相応の労力がかかりますが、短期的かつ基本的な目標としています。

- 並行して、透明性の活動を
  - ・ESGに関わる事業リスクの低減と事業機会の創出
  - ・ESGと事業の統合加速
  - ・研究開発等の社内活動の活性化
- へつなげていきます。

社内のあらゆる活動において透明性向上が主流化し、その結果として自発的な呼びかけにより透明化を推進する対象項目が増え、新たな活動が発足することが重要です。

これらの活動を支えるためには社内のインフラ整備が必要です。現在、ある限られたニーズとメンバーに対する情報を管理・活用するためのデータベースや関連するシステムが数多く存在しています。そこに集まった情報は、データの質（専門性、正確性等）が高いことに加えて、特定の部署や専門性を有するメンバーに適したシステム設計をすることで効率的、かつセキュリティの高い運営が実現できているというメリットがあります。

一方で、昨今の非財務情報に関する外部ステークホルダーからの要請は、複数の情報を統合しなければ回答できないような質問が増えており、複数のデータベースを人の手でたどりながらデータを収集・加工しなければならない事例が生じています。そのため、ひとつの回答を得るための時間がかかり、より高付加価値を生むような活動に割く時間が制限されたり、刻々と変化するデータにタイムリーに追従していくことが難しくなっています。このままでは、変化の激しい時代において、データに基づいた判断に影響を与えるおそれがあります。

そこで、データの質とセキュリティは維持したまま、種々の情報を融合させるためのITインフラを整備するための活動を進めています。

## 社会的インパクト

必要とする情報を入手することで、生活者は安全・安心な商品・サービスを選びやすくなり、快適な暮らしを送ることができます。また、生活者個人の選択が、本人が意識することなくSDGsに貢献することになり、これらの活動による環境影響が、地球が許容できる範囲内にとどまることが大切です。

そして、イノベーションや新しい価値を適切な情報を添えて世の中に提供することで、新しい市場を創出すると共に、持続可能で、人々の信頼に満ちあふれた世界の実現に貢献します。

製品の持つ情報に対する企業と生活者の非対称性が解消されることで、製品の選択軸が増えることが期待できます。その結果、生活者と企業が共通の情報を介して、共にESGよきモノづくりと、よりよい社会構築に参画できるようになると考えています。

生活者が正しい情報をもとに、生活者にとって意味のある製品や安全で安心な製品を選ぶようになることは、花王のみならずほかの企業にとっても行動変容の機会となります。それは、社会全体が環境や生物多様性などに配慮した持続可能な生活と商品、サービスを選ぶことにつながります。

そこに発生した課題もまた情報として世の中に発信され、見える化が進むことで、その課題の解決手段を有する個人や企業、団体等の参入による新たな協働が生まれる社会が形成されます。



# 徹底した透明性

非財務情報開示フレームワークは完成されたものではなく、今後も進化していくという認識です。そして、花王が積極的に開示対応を行うことは、開示に取り組む他企業・団体等への参考情報としての役割を果たすことができます。

## 貢献するSDGs



## 事業インパクト

生活者が必要とする情報を獲得し、生活者にとって意味のある製品や安全で安心な製品を選ぶことは、市場拡大の機会となり、花王が正しい行動と商品開発を行うことにつながります。

花王のモノづくりは、最新の科学的知見に基づく徹底的な本質的研究に支えられており、所有する個々のデータの信頼性は非常に高いと言えます。さらに各データが有機的に結びつくことで新たな価値やビジネスの機会が発掘されるものと期待しています。

また、一部流通では、製品中に含まれる成分の由来・原産地や環境フットプリント等の情報を企業に求め、独自の評価法と基準に基づいて取り扱う商品をランク付けする動きも出てきています。ランク付けに必要な

情報を提供できない場合は、そもそも取り扱い対象から外れる可能性も否定できません。性能や価格、デザインといった従来からの評価軸に加えて、環境や生物多様性、人権等に配慮したモノづくりを行っているかどうか、商品の価値として取り込まれるようになってきました。ランキングの上位になることで

- ・生活者にとって優れた選択肢として位置づけられるため、売上や利益が増加する
- ・競合他社との差別化が図れることで市場シェアが拡大する
- ・ブランドの認知度や信頼度が向上する

等が期待できます。

ますます活発、迅速かつ複雑化してきている開示要求、例えば、TCFDやTNFD、各種格付け機関への質問状に対して誠実に対応することは信頼の向上につながり、生活者や市場、投資家からのフィードバックを得ることで、よりよい生活を支援する商品・サービスの提供が可能になります。

花王は、これら開示要求の流れを、事業活動を通じて社会課題解決を行えているかのベンチマークとして捉えています。そして、中長期的には、環境や生物多様性、人権等に配慮したモノづくりが文化として根付くようになり、自然と共生する社会の実現のために不可欠な企業になることができると信じています。

## ガバナンス

### 体制

私たちは、すべてのステークホルダーに花王のありのままの姿をお伝えすることが徹底した透明性につながると捉えています。これまでも各主管部門が透明性向上の活動を進めてきました。

その中でも生活者の皆さまが直接触れることの多い、製品に関わる情報に関する透明性を重要視しています。そして、ESGコミッティの下部組織であるESG推進会議の下に、製品情報開示のためのタスクフォースを設置し、グローバルかつ部門横断的な活動が加速できる体制を構築しています。

タスクフォース発足以降、各年のKPIの進捗実績は年末に集計しESGコミッティで報告、本レポートにて公開しています。

その他、香料成分名開示に関して対応が必要な案件が生じた場合は、都度検討のための会議体を設定し、タスクフォースオーナー会議の場で承認を得た上で対応しています。

例えば2023年に、アメリカで新規に開示を行った「シート製品に関する開示基準の考え方の制定」においては、タスクフォースのオーナー会議の場で承認を経て、運用のガイドラインを改訂しています。

「花王ESGデータプラットフォームプロジェクト」については、ESGコミッティやESG推進会議で進捗報告

# 徹底した透明性

GRI 417-1

を行っています。より詳細な進捗管理や課題解決のためのプロジェクト推進体制を整え、定期的にプロジェクトオーナーやコアリーダーへの報告を行っています。その他の情報開示については、各主管部門で推進しています。

**P25** Our ESG Vision and Strategy > ガバナンス

## 教育と浸透

「正道を歩む」は、花王ウェイに記載されており、「よきモノづくり」や「絶えざる革新」と共に花王の基本となる価値観として位置づけられています。「徹底した透明性」の考え方や活動はこの「正道を歩む」の価値観に基づいています。法や規則等の遵守はもちろん、個々人が倫理に則って社会的に正しい行動をとることが非常に重視されています。この考え方は、研修など特定の機会のみならず、日常の業務を通じて社員のあいだに浸透され、仕事を離れた日々の生活においても徹底されています。また、同じく花王ウェイに記載された「現場起点」の考え方に則り、世界中の生活者のために必要な情報とは何かを、各ステークホルダーとの対話を通じて学んでいます。

## ステークホルダーとの協働

透明性向上のためには、サプライヤーの協力が不可欠であり、業界団体とも連動して製品情報開示の動き

を進めています。さらに、アカデミアとの交流を通じて、常に最新の科学的知見の収集を行っています。製品関連情報に対して生活者から直接お問い合わせいただくご相談・ご意見のみならず、流通、NPO／NGOとの対話の中から、社会と市場からのニーズをくみ取るようにしています。

## リスク管理

徹底した透明性の活動主体は、ESG コミッティの下部組織であるESG 推進会議の下に設置されたタスクフォースです。そのため、適宜進捗報告を行うと共に、活動を進める上で生じた課題に対しては、上部会議に上がる体制が整っています。情報公開後も継続的にモニタリングを行い、新たな規制や科学的知見が得られた場合は、速やかに公開情報の改定や新たな情報開示などの適切な対応を行います。その他、世の中の情報開示の動きを捉えて、前倒しで準備しておくことが重要であり、まだ手元にない情報が求められることも起こりえます。欧州ではEUグリーンディールに関わるさまざまな動きが活発化しており、TNFDのように、オープンイノベーション形式でルールメイキングをするケースも生まれています。花王ではこういったフォーラムにも積極的に参加し、いち早く情報をつかむ、あるいは部分的にでもルールメイキングに関与できるように活動を行っています。

**P40** Our ESG Vision and Strategy > リスク管理

## 指標と目標

### 中長期目標と2023年実績

私たちは、必要な情報(量・質)が入手できるブランドを「透明ブランド」と定義し、2030年までに花王が所有し、販売しているすべての家庭用品ブランドが「透明ブランド」となることを目標としています。そして、生活者の皆さまがより簡単でわかりやすいと感じていただける情報の開示方法も検討していきます。また、これらの情報を取り扱うためにはインフラ整備が必要です。そのため、短期から中長期に渡るグローバルな活動として、花王 ESG データプラットフォームを活用したタイムリーな情報提供を可能とするシステムを構築し、社内の管理からデータの加工、開示までのためのインターフェースを適宜整備していきます。取り扱う情報は、主にESG 関連の下記情報です。

- ・意思決定のための情報(社内活用)
- ・第三者からの要望(ビジネス要件、投資機関・投資家等からの質問)
- ・開示義務(法規制)

短期的には、法規制対応や外部からの問い合わせに迅速かつ正確に対応できるように、早期にシステムを構築することを目標にしました。

# 徹底した透明性

GRI 417-1

一方、取り扱う情報は多岐に渡り、また、現在も国際的なルール策定が行われている途上にある項目もあるため、取り扱う情報の範囲を段階的に拡張し、進化し続ける中長期的な活動になると予想しています。また、別途社内で進行中の各種システム開発関連プロジェクトとも密に連携を取り進めていきます。

## 2023年の実績

### 香料成分名の開示

2023年は、これまで構築してきた業務効率化のためのインフラを活用し、新規アイテムやブランドでの開示や情報更新を進めてきました。

2023年の活動実績として、新規に1ブランドで公開開始、開示済みのブランド内の41SKUで新規開示、14SKUで情報の更新を行いました。2023年末時点でのKPIの進捗は22%となりました。



My Kao Mall  
<https://www.kao-kirei.com/ja/>

MyKirei サイト  
<https://www.mykirei.com/>

## ESG 情報を取り扱うためのインフラ整備「花王 ESG データプラットフォームプロジェクト」

2023年には、社内のESG関連情報を整理・統合するプロジェクト(花王ESGデータプラットフォームプロジェクト)を立ち上げました。法規制対応や外部からの問い合わせへの迅速かつ正確な対応の実現をめざして

います。DX化によって節約できる工数を、事業の伸長や新規案件創出へと活用していきます。

このプロジェクトでは、取り扱うべきESG関連情報の中から重要度やシステム化の効果などを考慮し、優先順位をつけ、それに基づいてプロジェクトのスコープとシステム設計要因を決定し、マスタースケジュールを策定しました。さらに、2024年以降のシステム構築に向けて各種調査・設計を進め、一部のシステム開発を開始しました。

先行していた欧米のプロジェクトでは、包装容器に関する情報を統合するシステムを完成させました。昨今の社会課題になっているプラスチック容器の問題に対し、プラスチック使用量の経年変化やリサイクル樹脂の占める割合等のデータが即座に集計できるようになりました。今後は、よりサステナブルな容器開発に役立てていきます。

### 非財務情報開示への対応

投資家向けの情報開示としては、2023年9月にTNFDのフレームワークが正式リリースされました。花王は、フレームワークの発表に先駆け、2023年4月にTNFDのフレームワークを活用した生物多様性に関するレポート「生物多様性がもたらすビジネスリスクと機会」を公開しています。その他、TCFDやCDP、DJSI等への対応を行っています。

P343 生物多様性

### 社会的に関心が高い成分の開示

2030年に向けた開示目標としていた社会的に関心の高い18成分の方針公開を、2022年に前倒しで達成しました。社会的な懸念や課題は、社会情勢や人々の倫理・価値観の変化の影響を受けることから継続的な調査を行い、現在は新たに12成分を加えた計30成分の方針開示をめざしています。

花王がグローバル拡大のために重要と捉えているスキンケア事業においてキーとなる2成分(オクトクリレン、ホモサレート)の方針については、2023年9月にサステナビリティサイトにて公開しました。

P72 より安全でより健康な製品

## 2023年実績に対する考察

2023年は、これまで構築してきた業務効率化のためのインフラを活用し、新規アイテムやブランドでの開示や情報更新を進めてきました。

2023年に新たに香料成分名を公開できたのは、1ブランドになります。そして、すでに開示済みのブランド内の41SKUで新規開示、14SKUで情報の更新を行いました。

すでに開示したブランドの中で、新たなカテゴリーでの香料成分名を開示しました。シート状の製品など、新たな形態の商品をカバーできるようにガイドラインの改訂を行いました。今後も開示カテゴリーの拡大や

# 徹底した透明性 GRI 417-1

新形態の商品が生まれてきた際には、運用ガイドラインを策定・改訂する必要性を認識しています。

また、グローバルに開示を進める中で、地域やブランドによって生活者の開示に対する感度が異なることが再認識されつつあります。このため、外部環境や事業計画を鑑みながら開示の優先順位をつけて進めていきます。

また、最近では、香料のみならずその他の成分情報や、環境への影響、サプライチェーン全体の透明性が求められ、お伝えすべき相手も生活者のほかにさまざまなステークホルダーが対象になります。さらなる社内体制の強化並びに各データベースの充実とシステム間の連動、社内外の連携を進め、2030年までの100%「透明ブランド」化の目標達成をめざします。

また、現在及び将来の情報開示と、ESG関連データのプロアクティブな活用を視野に入れたインフラ整備として、花王ESGデータプラットフォームプロジェクトを立ち上げました。法規制対応や外部からの問い合わせへの迅速かつ正確な対応を可能とすべく、ESG関連情報の中から優先順位の高い項目を選定しました。すでに一部の地域を対象にしたシステムは完成し、グローバル展開のためのシステム設計へと移行させていただきます。

## 主な取り組み

### 花王ESGデータプラットフォームプロジェクトの立ち上げと推進

現在及び将来の情報開示と、ESG関連データのプロアクティブな活用を視野に入れたインフラ整備として、花王ESGデータプラットフォームプロジェクトを立ち上げました。本プロジェクトは、徹底した透明性の活動を強く後押しするものであり、ESGよきモノづくりとKLP推進を下支えし、サステナブル市場の創出、データに基づく意思決定(経営・事業・技術戦略等)につながるものと期待しています。

法規制対応や外部からの問い合わせに迅速かつ正確に対応できるように、早期にシステムを構築することを最初の目標にしました。

従来は、テーマや部署ごとに独立したデータベースを整備、管理したほうがデータの正確性、機密性といった点で大きなメリットがありました。しかしながら最近では、それらのデータを紐づけ、演算した結果を求める質問も多くなってきています。例えば、製品の中身の情報と売上額を突合せ、集計することが必要な質問をいただいています。

そのため、花王ESGデータプラットフォームプロジェクトでは、互いのデータに関連付けられるようなくみである「データレイク」を整備し、迅速かつ正確に、所望のデータを取り出せるシステムを構築します。

問い合わせの件数や1件当たりの回答に要する時間、

現在の仕事のやり方を正確に把握し、効率化のポイントを特定すると共に、システム化による効果の大きさから優先順位を定めシステム化の準備を行ってきました。特に、包装容器と製品に関する情報は緊急性が高く、最初のテーマとして取り組みました。

多くの部署が関わるプロジェクト運営となっています。そのため、プロジェクトの進捗を確認するための会議体や、全体の進捗と課題を解決するための会議体を毎週設けています。データの取り扱いと回答、データをもとにした意思決定はグローバルが対象となるため、欧米チームとの意思疎通のための会議体も設けています。

ガバナンス上は、ESGコミティで進捗報告を行い(年1回)、担当役員が出席するオーナー報告を年4回、関連部門の代表が集まるコアリーダー会議は概ね月2回(のべ28回)行っています。

2023年には、先行していた欧米のプロジェクトにおいて、包装容器に関する情報を統合するシステムを完成させました。昨今の社会課題になっているプラスチック容器の問題に対し、プラスチック使用量の経年変化やリサイクル樹脂の占める割合等のデータが即座に集計できるようになりました。2024年中には、グローバルで包装容器情報をカバーできるシステムへと発展させる計画です。今後は、よりサステナブルな容器開発にも役立てていきます。

取り扱う情報は多岐に渡り、現在も国際的なルール策定が行われている途上にある項目もあるため、取り



# 徹底した透明性

GRI 417-1

扱う情報の範囲を段階的に拡張し、進化し続ける中長期的な活動になると予想しています。次期に開発するテーマも絞り込んでおり、新たなワーキンググループの立ち上げも行いました。また、別途社内で行っている各種システム開発関連プロジェクトとも密に連携を取り進めています。

## 香料成分名の開示

ウェブサイトにある「製品カタログ」や各種製品サイトを通じて、製品の特徴や製品に用いられている成分に関する情報を科学的根拠に基づいて掲示しています。

2023年は、これまで構築してきた業務効率化のしくみ(香料成分名のリスト作成機能とウェブ上の「製品カタログ」への自動連係システム)を活用し、新規アイテムやブランドでの開示や情報更新を進めてきました。

アメリカで展開する「MyKirei」ブランドにおいて入浴剤とアイマスクでの香料成分名の開示を行いました。同じ「MyKirei」内での開示のため、開示ブランドの数は増加せず、KPIに対して数値上の反映はされませんが、新たなカテゴリーとして開示が始まった例になります。

開示に際し、運用ガイドラインの追加を行っています。これまでの開示事例は、いずれも液体(水溶液系の処方)を対象としていました。今回開示を行った入浴剤とアイマスクは、いずれも溶媒を含まない固体状の製品であり、「香りに関する方針」にある、「製品中に0.01重量%以上配合されている香料成分情報を開示していきます」

との考え方をどう取り扱うべきかが課題となりました。

アイマスクのようなシート状の製品には、液体を含まない乾燥したものや含浸液を含むものがあり、それぞれについて議論を重ね、タスクフォースのオーナー会議で今後の運用方針についてのガイドラインを決定、関係者に共有しました。

新規開示ブランドとしては、日本国内の「キュレル」ブランドから発売された柔軟剤の香料成分が挙げられます。その他、改良等に伴う香料成分名情報の更新を行っています。



My Kao Mall  
<https://www.kao-kirei.com/ja/>

MyKirei by Kao > Wellness  
<https://www.mykirei.com/collections/wellness>

## 化学物質の有用性と安全性に関する情報開示

責任ある化学物質管理推進の基本方針のもと、生活者と社会に対して、これまで行ってきた化学物質の安全性に関する情報のわかりやすい開示に加え、有用性情報発信の取り組みを開始しました。

P275 責任ある化学物質管理

## 社会的に関心が高い成分の方針開示

2023年には、花王がグローバル拡大のために重要と捉えているスキンケア事業においてキーとなる2成分(オクトクリレン、ホモサレート)の方針について、2023年9月にサステナビリティサイトにて公開しました。

P72 より安全でより健康な製品

## サプライチェーンにおける透明性

花王では、サプライチェーンにおいても透明性を高める活動を推進しています。資源保護、環境保全や安全、人権などに配慮した原材料を調達すると共に、トレーサビリティの確保に努め、サプライヤーとの対話を通じ、よりサステナブルな原材料調達をめざしています。

花王は、サプライチェーンの透明性を高めるため、サプライヤーから定期的に最新のトレーサビリティ情報を入手し、花王のサプライチェーンにつながるミルリスト及びマップを公開しています。パーム油ミルまでのトレーサビリティは2022年12月末時点で100%でした。地図上でミルの位置情報を把握した上で、パーム油ミルから50km圏内におけるGlobal Forest Watch、NASA Earthdataの衛星モニタリング情報やProtected Planetによる泥炭地の情報、サプライヤーへのNDPE<sup>※1</sup>調査、またNGOからのサステナビリティ情報を活用し、サプライチェーン上で発生する違法な



# 徹底した透明性

森林破壊、CO<sub>2</sub>を多く含む泥炭地開発のリスクモニタリングと検証を行っています。2025年までに小規模パーム農園までのトレーサビリティ100%完了をめざしています。

花王は、サプライチェーン上の人権に関する透明性についても取り組みを進めています。2022年9月には、小規模パーム農園の人権に関する課題に対して、ビジネスと人権を専門とする NPO 法人経済人コー円卓会議日本委員会(CRT 日本委員会)と協働で、グリーンバンスメカニズムの運用を開始しました。グリーンバンスメカニズム対象農園数は、2023年9月末時点で75農園、お問い合わせ件数は147件(2022年9月～2023年9月)です。

これら持続可能なパーム油調達に向けた花王の活動は、ウェブサイトのパームダッシュボードで公表しています。

※1 森林減少禁止、泥炭地開発禁止、搾取禁止(No Deforestation, No Peat, No Exploitation)

**P100** 責任ある原材料調達



パームダッシュボード

<https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/palm-dashboard/>

## 社員の声

### テクノロジーによる透明性の実現



**Christa Brady**

ESG 部門、AEMEA リージョン  
戦略 & 活動推進担当部長

花王 ESG データプラットフォームプロジェクトは、製品、包装、生産に関する基本情報の証明を容易にし、花王の透明性に対する取り組みを促進させるものです。さまざまな記録システムを単一の「データレイク」にリンクさせることで、現在の素材の使用状況についての洞察を入手し、ビジネスインテリジェンスによって廃棄物・

CO<sub>2</sub>削減におけるイノベーションを促進させ、ビジネスパートナー、生活者、適切な管理機関との情報共有を円滑に行うことが可能になります。

このイニシアチブを開始して以来、あらゆる役職や部門から多大な支援を受けてきました。核となるデータレイクが構築され、さらに自動化が進んだ方法でデータを接続できるようになったことで、この情報を使用して、さらにサステナブルな世界に貢献する、安全性や健全性がより高い製品をつくる能力が大幅に向上しています。この重要なプロジェクトは透明性向上への道を切り開くものであり、今後数年に渡り、このプロジェクトに基づいてステークホルダーが重視する要素の透明性を実現し続けることになるでしょう。